

5. 国際開発学会「原発震災から再考する開発・発展のあり方」研究部会 シンポジウム報告

重田康博

国際開発学会「原発震災から再考する開発・発展のあり方」研究部会

国際開発学会社会連携委員会 合同シンポジウム

—震災から4年目を向かえて—

「まだ続く福島原発震災の困難と目指すべき社会のあり方を考える」

日時：2014年7月25日（金）18時15分～20時45分

場所：早稲田奉仕園リバティールホール

主催：国際開発学会「原発震災から再考する開発・発展のあり方」研究部会
国際開発学会社会連携委員会

プログラム：

司会 黒田かをり（国際開発学会社会連携委員会副委員長）

第一部 基調報告

①重田康博（宇都宮大学国際学部教授）

「原発震災後の開発研究の再考—被災者・避難者の困難と課題」

②丹波史紀（福島大学行政政策学類准教授）

「福島原発事故が社会にもたらした困難と復興」

第二部 パネルディスカッション

①古沢広祐（国学院大学教授）

「原発震災後の社会の持続可能な開発のあり方」

②大橋正明（国際開発学会社会連携委員会委員長）

「国際的防災枠組みと原発災害」

③田村太郎（ダイバーシティ研究所代表）

「原発震災後の復興とこれからの社会」

④総括コメント・質疑応答

閉会の辞 佐藤寛（国際開発学会会長）

シンポジウム趣旨報告

<司会挨拶>

黒田かをり（副委員長）

本日の司会は、国際開発学会社会連携委員会
黒田と申します。どうぞよろしく願います。
願います。

<開会の挨拶>

重田康博（宇都宮大学国際学部教授）

国際開発学会「原発震災から再考する開発・
発展のあり方研究部会」代表の重田です。どう
ぞよろしく願います。併せて今日は、
国際開発学会社会連携委員会と共催でやらせて

いただきます。従来、国際開発学会では原発震災の研究や発表を取り上げる会員が少なく、その機会も限られていたため、私たちはこの研究会を原発震災後の3年前に発足させました。

震災から3年半経過して被災者・避難者の権利の問題は続いていますが、一方日本社会の中では風化しつつあります。これに対して宇都宮大学では「福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト」を立ち上げ調査研究をしてきました。こういう時だからこそ、被災者や避難者の困難にどのように対応するかを考えなければいけません。

と同時に、次の社会をどうするか考える時期になっています。今、持続可能な社会と言ってよいかわかりませんが、今後どうするかについて一緒に考えることが今日のシンポジウムの目指すところです。パネリスト、報告者も多彩なので、オープンエンド的なシンポジウムにし、私たち学者・研究者の役割についても検討していきたいと思います。

今回の開催にあたり、ご協力いただいた関係者の方々に感謝申し上げます。

基調報告、パネルディスカッションの報告要約については下のサイトをご覧ください。

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

HP 福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト

<http://cmps.utsunomiya-ac.jp/news/140725fsp.html>